



*学校便り作成にあたり、生徒の文章や写真を使用する場合があります。長田中学校個人情報取扱規程を遵守しておりますが、お気付きの点がありましたら学校までご連絡ください。

「いじり」ってあり？なし？「いじめ」との境界

友達同士などで話しをしているときに場を盛り上げようと「いじったり、いじられたり」した経験、あると思います。相手を傷つけてしまう可能性もはらんでいます。一線を越えれば「いじめ」になっている危険性もあります。そんな「いじり」について、どう考えているか高校生の意見を聞いてみました。



1 「なし」派の意見

いじめといじりの境目が曖昧になり、嫌な思いをする人が多くなると思います。芸人や芸能人の方々はお金をもらってやっていることです。また、海外では他人の容姿などのいじりは面白いとされています。いじりをなくすべきだと思います。

私は断然なし派！友人にも「クラスでいじられていてつらい」と言っている子がいますし、仮に本人たちが良くても聞いている第三者の自分がハラハラします。本人たちは楽しそうでも、周りにはいじめのように映ることもあります。いじりは、第三者から見てもそう気持ちのいいものではないと思います。テレビでも誰かをけなしてとる笑いはナンセンス！誰も傷つかないいじりならセーフだと思います。

お笑い芸人などはお互いがわかり合った上でやっているけど、中にはそれを見て嫌だと思っている人がいるかもしれない。友人への「いじり」のつもりでも、相手がいじめと認識することもあります。そのため、私はなし派だと思います。

2 「あり」派の意見

私は「相手を不快な気持ちにさせないいじり」ならあり。いじりにも程度があります。親しい仲で、それがちゃんと相手に「いじり」とわかるような内容であれば、相手も不快な気持ちにならず大丈夫だと思います。しかし、自分はいじったつもりで言った一言も、相手に不快な気持ちにさせてしまったら、それはいじりの限度を超えていること。あくまでもいじりは親しい仲で、かつ誤解を生まないような言い方をしないとイケないと考えます。

いじりはあり派だと思います。確かに、いじりによって傷ついたり、いじり自体を不快だと思う人もいたりするかもしれませんが。ただそれは「悪意のあるいじり」や「相手を傷つける言葉を使ってしまう」など配慮の足りなさから発生すると思っています。いじりが全くないと会話が楽しくなくなってしまいます。気が知れている仲のいい人に対し、それでも「十分相手を配慮して適度にする」ならやってもいいと考えます。

いじりはあってもいいと思います。私はいじる方でもいじられる方でもないので断言はできないのですが、いじりあいの光景を見ると「仲良しなんだな」ということがわかりやすいです。ただ、ほとんど罵倒の言葉であるいじりや語調が強いいじりは「いじり」なのか「いじめ」なのかわからないので、何とも言えません。

(ONLINE 高校生新聞参照)

「いじめ」と「いじり」の本質は同じ！？

～第40回全国中学生人権作文コンテスト 中学校3年生の作文より～

「いじめ」と「いじり」。皆さんはこの二つにどのような差があると思いますか。

小学校の時、いつもおもしろい事をして皆を楽しませてくれる子がいました。その子はよく周りの人にかかわれる「いじられキャラ」でした。初めの頃はその子も「やめろよー」と皆のいじりに対して笑顔で言葉を返していました。その反応を見た私達は、「あの子は多少いじっても怒らない子なんだ



な」と勝手に思ってしまい、その子へのいじりが日に日に多くなっていきました。内容も、容姿や体型、運動神経などを馬鹿にしたり、その子の持ち物を勝手に取り、それをキャッチボールのように投げ合ってその子に取らせないようにしたりと、段々とひどいものになっていきました。しかし、その子は笑って注意するだけで怒ることはありませんでした。そんな景色があたり前になりつつあり、皆もそれを笑って見ているだけで、私を含めて多くの人がその景色がおかしい事に気付いていない、いえ、気付こうともしませんでした。そんなある日、学校へ行き、教室に入るといつもとクラスの雰囲気少し違う事に気が付きました。その日は皆がその子をいじっていなかったのです。私は、「今日はいじっていないんだ。もうやめたのかな」といじりがなくなったのだと思いました。しかし、それは大きな間違いでした。皆はいじりをやめたのではなく、その子を「〇〇菌」として扱いはじめたのです。・・・(中略)・・・

そんな事が一週間ほど続いたある日、いつも笑顔だったその子が泣いてしまったのです。その時、やっとクラスの皆がその子に対して行っていた事は「いじり」よりもひどい事だったという事が分かったのではないかと思います。その子が泣いてしまった事で、「いじり」から「いじめ」に発展してしまったものは抑まりました。クラスの皆もその子に謝り、「いじり」が少なかった時に近いクラスに戻ることができました。この出来事があったおかげで、相手が笑っているから、怒らなかったからといって例え冗談でも言われて傷付く言葉は言ってはいけない事、自分はそう思っていないくてもいつでも加害者になってしまうという事を改めて感じる事ができました。

ことわざに、「親しき仲にも礼儀あり」という言葉があります。これは「仲が良くなっても、遠慮がなくなって礼儀を忘れることはあってはならない」という戒めの意味です。この言葉にもあるように、仲が良いからといって「何をしても良い」というわけではないと思います。「いじめ」を受けたことにより、学校に登校できなくなったり、自殺してしまう人もいます。「いじめ」の中にも、きっかけはささいな「いじり」だったものもあったかもしれません。しかし、それがどんどん大きくなっていき、「いじめ」につながってってしまうのではないのでしょうか。

私は、「いじり」は「いじめ」の一步手前の状態で、この二つに大きな差はないと思います。「いじり」がエスカレートすると、とたんに友達同士から被害者・加害者へと関係が変わってしまいます。それを止めるためにも、軽い「いじり」の段階で「これは少しおかしいんじゃないかな」「今のはひどいな」と思った時に勇気を出して言うことで、これから起きてしまうかもしれない「いじめ」を予防することができるのではないのでしょうか。「いじめ」の被害者を増やさないためにも、この事を日頃から意識して、加害者や傍観者にもうならないようにしていきたいと思いました。

(第40回全国中学生人権作文コンテスト某県大会優秀賞)

「いじり」は「いじめ」 自殺遺族が中学生に訴え ～いじめは被害者、加害者だけの問題ではない～

夏休み明けの子どもの自殺が深刻な社会問題となっている中、数年前にわが子をいじめ自殺で失った遺族の講演会が、〇〇中学校で開かれた。「いじめが行き着く先は人の死。あなたの何げない一言が誰かを死に追いやるかもしれない」。父親は生徒を前に静かに語り掛けた。

20〇〇年〇月〇日、中学3年生のAさん(当時14)は、「友だちのことを守れなかった」と遺書を残し、自宅で自ら命を絶った。調査委員会の調査によると、Aさんは中学2年生のとき、同級生4人からいじめに遭った仲の良い友人をかばっているうちに自身が標的にされた。自らが標的になることで他の生徒へのいじめが止まるため「いじられ役」を演じ続けたが、現状を変えられず次第に追い詰められ、最後は自らの死でいじめを告発したのではと推察された。事件後、加害生徒4人はAさんの父親に「いじめではなく、いじっていただけです」と話したという。

この日の講演でAさんの父親は「『いじめ』と『いじり』の違いは何か」と会場の生徒たちに問い掛け続けた。「皆さんが思っているいじりは大丈夫ですか。その場のノリ、空気、笑いでごまかしていないか。いじることは人を笑いものにし、見下し、人権を奪う。それはいじりではなく、いじめです」。

Aさんの父親は「事件後『怖くていじめを止められなかった』『助けてあげられなくてごめんなさい』と打ち明けてくれた息子の同級生がたくさんいた」と明かし、こう結んだ。「被害者、加害者だけの話ではない。その場にいた子どもたち全員が当事者であり、心に深い傷を負う。それが、いじめです」と。

(神奈川新聞ネットニュース参照)

